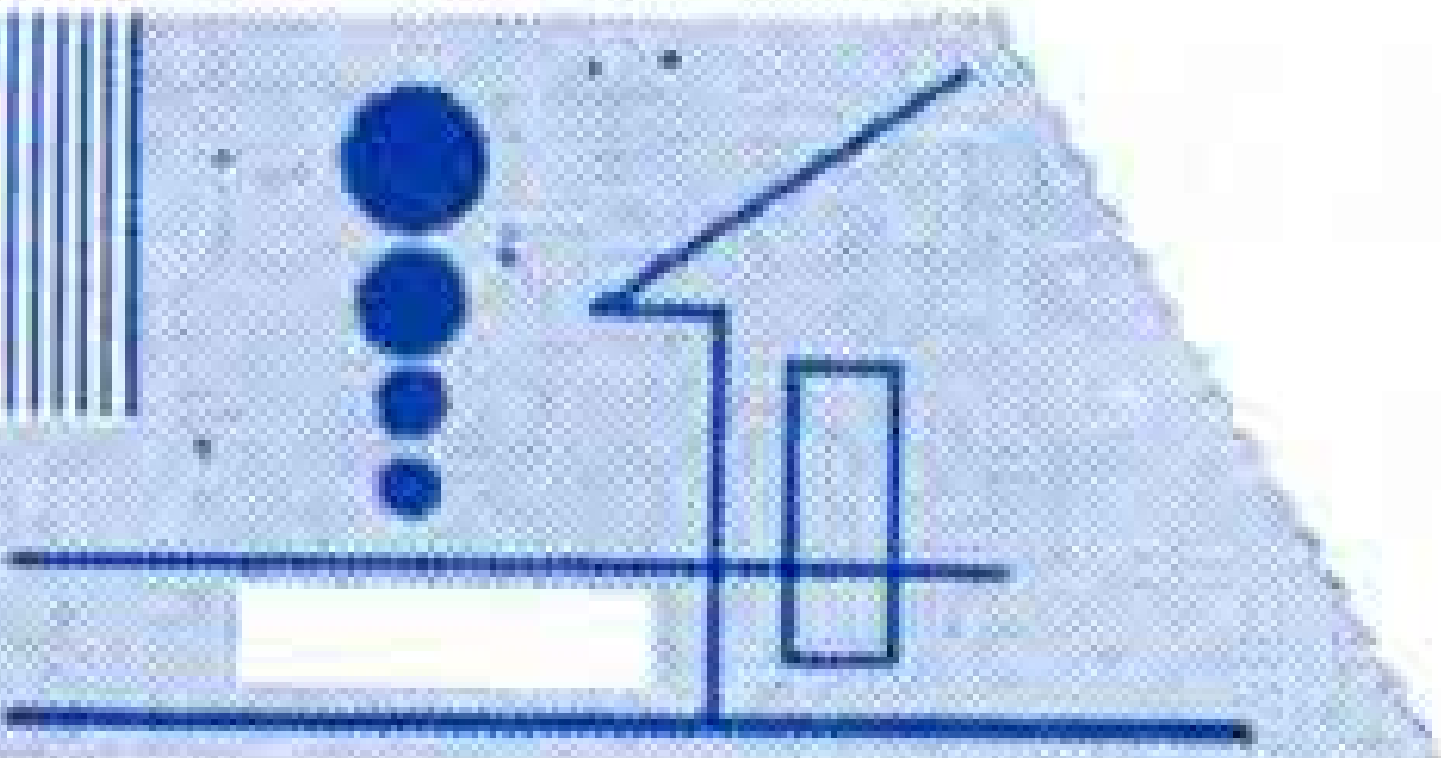


市政モニター提言



公園には四季に変化する 落葉樹を植えたら……

落葉樹は、春の若い芽からはじまって初夏のさわやかな新緑、力強い深緑、秋の燃えるような紅葉、そして冬の寂しい梢となり、四季折々に美しく変化し、わたしたちの目を楽しませてくれる。

富士市も最近道路が整備され、公園も数多く建設されています。経済成長一点ばりの政策から、うるおいのある市民生活へと、めざましく発展していく様子を、私はたいへん素晴らしく、うれしく思う。

市内の緑化運動も盛んになり、街路樹や公園、樹木も多くなっています。私たちの理想とする目標にはほど遠いけれど一日ごとに「緑の街」へ変化しているのが目にうつり、これからも一層運動を強力に進めてほしい。

さて、市ではこれからも公園を増設していくということだが、公園内の植樹に

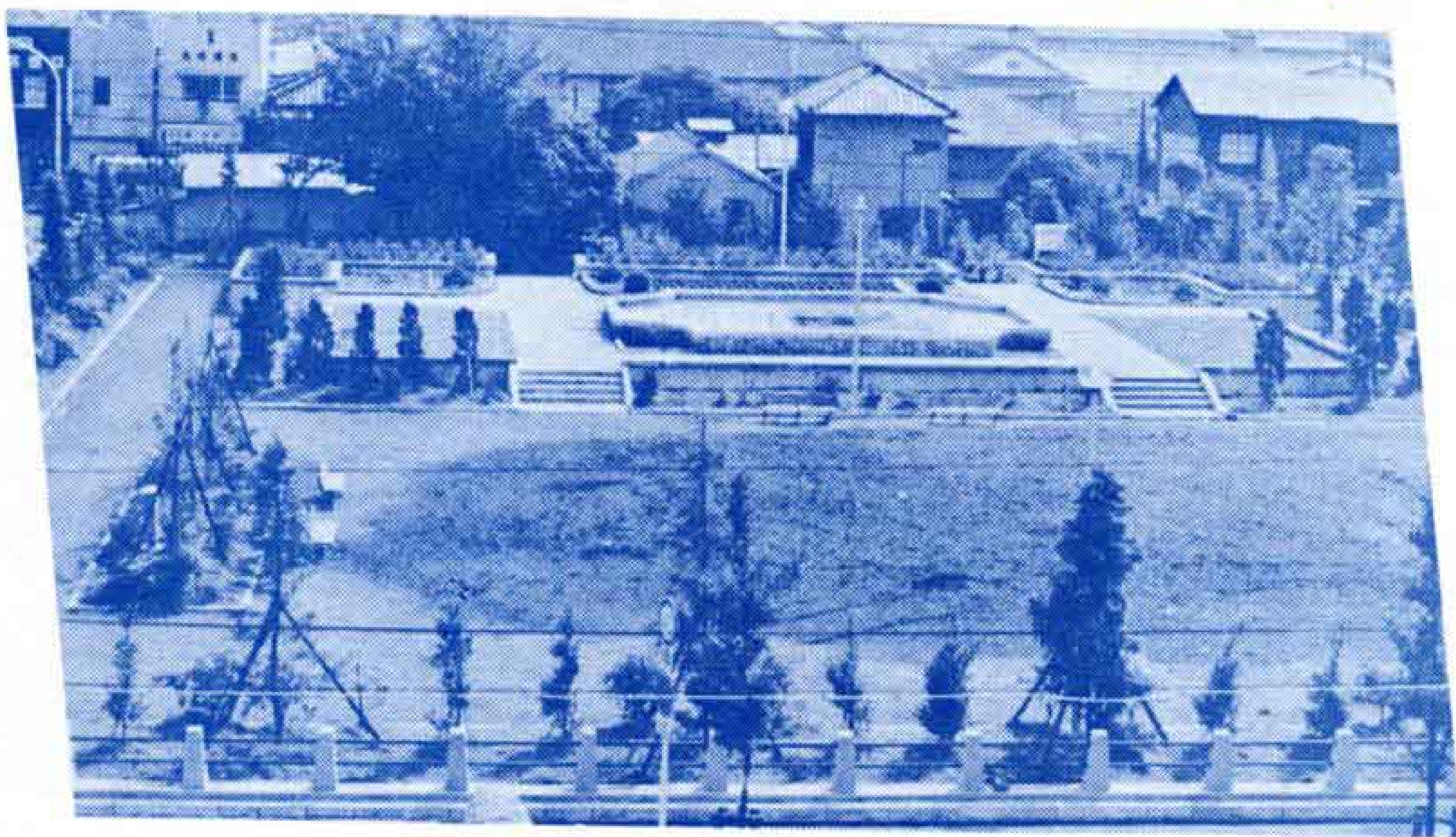
ついて提案したい。

私の提案は「公園にもつと落葉樹を植えるべきだ」ということだ。最近つくられた南町公園や平垣公園に植えられた樹

木は、ほとんど針葉常緑樹である。常緑樹、ことに針葉樹は季節の変化がとぼしく、なにか物足りない気持ちがする。

落葉広葉樹を植えると、害虫発生や、落ち葉の処理といった管理面の問題もあると思うが、四季の移り変わりの美しさを見せてくれることを考えれば、管理に費用をかけてもいいのではないか。心にうるおいをもたらしてくれる落葉樹を植えるということを、ぜひ一度検討してほしい。それがひいてはみんなに「樹を植える楽しさ」を教えることにつながると思うのだが……。

(針道三夫・横割)



【南町公園には常緑樹が多いのでもっと落葉樹を】

住民管理や公害の計算も

新鋭コンピューターに切替え

社会や生活のしくみが複雑になると市役所の仕事のしかたもそのペースに合せなくてはなりません。このため、昭和43年に電子計算機(コンピューター)を導入して、それまで手作業で行なっていた税金や水道の料金計算を電子計算機で処理するようになりました。その後、公害対策の一環として排煙の拡散計算、住民基本台帳制度移

行のため住民コードの作定など4年間に、事務計算だけでなく高度の技術計算まで要求されるようになりました。

このため、これまで使用していた電子計算機では、処理能力が限界となり、これ以上事務処理ができなくなりました。また、事務用の計算機のため、公害問題などの技術計算は思うようにできません

でした。

そこで、これらの事務量に対処し、処理のスピード化をはかるため、新しい計算機への更新を行いました。切り替え作業も9月中に終り、10月2日渡辺市長が始動ボタンを押して、新しい計算機で処理をはじめました。

これまでの計算機では、ひとつの仕事をしていると、その仕事が終ってからでないと次の仕事にかかることができませんでした。しかし、今度はいくつもの仕事を同時に行なうことができるようになり、事務処理のスピード化は十分はかられています。

なお、電子計算機は計算だけの仕事をするのではなく、行政の頭脳でなければなりません。情報化社会の中で、住民福祉に役立つ情報を提供するなど、これからの幅広い利用が期待されています。

【10月2日から運転をはじめた
TOSBAC-5100モデル30
中型コンピューター】

